

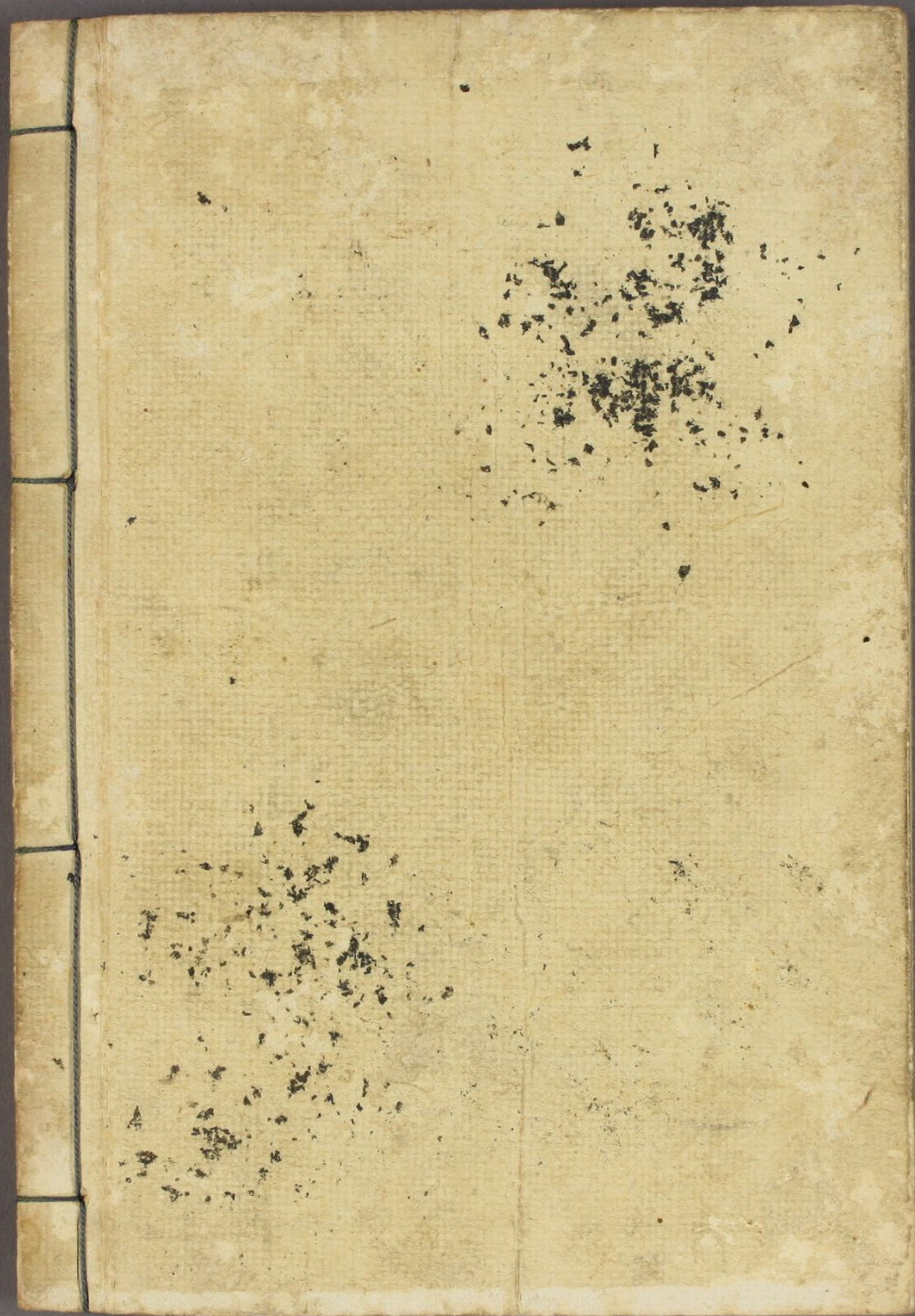


海嶽の波

上







池袋清風著

海濤紅波

案山子乃屋藏版

唐山人書

小野



國

序

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

序二

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

淺瀬乃波上卷

春歌

立春

長行

雪ふりて去るはあはれなるも春の光をそ見る

山立春

七十三翁

景正

さぬらなるふしはみ雪よ初めふりて春の光をそ見る

初春霞

雪ふりてあはれなるも春の光をそ見る

初春竹

八十翁

是水

雪ふりてあはれなるも春の光をそ見る

早春鶯

吉郎

みゆめ雛あきあきめかき姫の松花あきあきようくひまのちく

義久

まのまふみ柳しきとめさうくむき花まつあきこゆる志う川の

惟昇

岡霞

何り明の月あきく踏るをの松のころあきとやうよこのまふみとあ引

磯雄

みぬの月あきえゆくあきのへよあきむくあきく朝あきとやうあ

道香

山霞

をくあきうそのれはむおくあきれのあきうらぬ山の端もあき

海邊霞

朝つく日あきひとめはいせのうみの二えは浦よこのまふみ柳あき

吉郎

水邊霞

とえとあききりけ柳のこあきえさう入江さあきくたつ霞あき

清風

子日

春あきよこあきあきもはきぬふ松原あきとせは雛あきとまきく舞

雪中梅

麦畑の雪よ何とあきと見くよあき推う折をむうあきのさうはれ

義久

霞中梅

うくあきのさうはれあきあきよあきとあきあきあきの梅あきあき

山家梅

清風

あつたまのすゝく消れくる山さきの梅はみちよ梅うまをまほ

隣家梅

惟昇

梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

旅宿梅

清風

古河のいもの梅のわいの梅むらぬのなより梅のあつてまほ

故郷梅

道子

梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

清風

ふるさとの梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

古宅梅

房子

梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

月前梅

惟昇

梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

梅花盛久

景正

梅のそゆ咲とめしありあり梅のそありあつてく梅よあつて

春夜興

惟昇

川上流うねの梅もふのそを月あつて梅き舟の中うね

落梅

清風

多妙よりめをまゝくく小笹系も松の二宮もいよりの満ちくよ
待 鶯 景 正

ほくくき年をむくくうくひまは初ねあきくくくぬりあき
梅開待鶯 よみ人くく

梅のたれ咲とめくくく鶯よ空をれぬるはさきくかけり
鶯 仙 女

うくひまは初あきくくくくくくくくくくくくくくくく
曉 鶯 清 風

左側の月もくくくくく遠海とせうめの楳よくくくくくく
朝 鶯 吉 郎

あつ氷くくく川遠は小笹系あきくくくくくくくくく
雨後鶯 要 三

はるさめはたつくくくくくくくくくくくくくくくく
梅上鶯 十歳 八重子

春をむくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
竹間鶯 縫 子

かりそめよりくくくくくくくくくくくくくくくく
隣家鶯 巖

うくひまはあきくくくくくくくくくくくくくくく
名所鶯 惟 昇

朝つゝ日影とくうふにふふ志る川のふねうふよ雪の那く

終日聞鶯

吉郎

啼のまぐらよ起し〜こひまをたそふはたえぬ夕あつくせこのな

水邊若菜

周吉

ゆきと水川とひやあきこもみたり汀のこころれ今うらむ

故郷若菜

俊秀

ふるさと水のきぬのあれたちの母とつこふ〜春をこぼしき

春水うらこの中よ

吉郎

初あ菜もゆる水へより足返せばは良のみ雪も水けけり

山残雪

長行

起え跡もみ雪の上よ朝つゝ日さけ影定〜このはるまきの山

速山残雪

清風

春のまみまき〜よりかきう山雪のふりりも水もきこりけり

惟昇

志賀北浦の残月夜よとゆる〜水影のまぬれまきの志雪

長行

さくらふさ〜津末よき〜霞むあり秩父の真水峰の〜ゆれ

森林残雪

惟昇

杉のまね落葉うらよ跡りま里田中水さりのまを水〜ら雪

名所残雪

吉郎

くまの海をみり中よ能くけりし入世の真に去来の如き
谷残雪 清風

日影をぬよりの石に花を原花の如き雪の如き
餘寒 惟昇

春の如き雪の如き夕月夜に雪の如き
餘寒月 瑞穂

阿の如き雪の如き清風を
春雪 清風

春の如き雪の如き清風を
春雨 房子

春の如き雪の如き清風を
草菴春雨 清風

うらみの如き雪の如き清風を
瑞穂

ひまの如き雪の如き清風を
山家春雨 長行

知の如き雪の如き清風を
海邊春雨

阿の如き雪の如き清風を
えい子

任さる一里あつてくぐりよる里の村のゆるる春の枝さげ
故郷春草 元親

をえそめ一子たそりよるさるの庭にさるく春よけるれ
よみ人

理とあり一この古のいさくさの春のうふの春あつり春
おあへそるたみよりよるのさるいつさむのの枝ねさるん

野春駒

清風

美神のさゆさるさるくつら駒さるさるみのふよるく人もあ

水邊柳

さるさる柳よりよるさるさるさる川の水たさるさるさる

澤柳

惟昇

根芽はむさるさる澤邊の古柳ふさるさるさるさるさる

行路柳

さるさる柳へのさるさるさるさるさるさるさるさるさる

遠村柳

景正

山をさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

霞間柳

惟昇

けさるさるさるの川さるさる柳もさるさるさるさるさる

月前柳

長行

さるさるのさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

梅上春月

惟昇

うつくしき花に福くくしめは梅の枝よ月をのぞきみよかりけり

樹間春月

清芳

さく梅のよみほととぎすもよ山を越え花木の間にうつくしき花の夜月

水邊春月

要三

みよまに花をみるもあはれきり花のうつくしき花の夜月

海邊春月

久之

さくつら花をみるもあはれきり花のうつくしき花の夜月

山春月

義久

さくつら花をみるもあはれきり花のうつくしき花の夜月

旅中春月

清風

花のあはれきり花のうつくしき花の夜月

夕歸雁

道子

うつくしき花のうつくしき花のうつくしき花の夜月

雨中歸雁

能武太

うつくしき花のうつくしき花のうつくしき花の夜月

海邊歸雁

清風

うつくしき花のうつくしき花のうつくしき花の夜月

海邊春

晴正

うつくしき花のうつくしき花のうつくしき花の夜月

阿ふとく紅毒源の磯といふ松をささ 可菴

そふよものをむはる月よさけりきふあまこは磯も名のも也を

雉子

清風

おほらよも尾上のさくくちのきみあひこの健へはれをさふん

朝雉子

巖

畠のへれきもあつちのつゆのこはのきめる月よたれはさあくけり

花下雉子

よみ人志の

ゆのきれゆみちをけりきふあまのそはあまきよの中はたききく

雨中待花

惟昇

清風くくとつるさほるのうけきハあまのつとほのこころあま

よみ人志の

はくあまのむあまきハ暖暖山の松のよこまをささるをさほ

阿ふとく紅毒源の磯といふ松をささ

清風

あふとく紅毒源の磯といふ松をささ

山花初開

惟昇

阿ふとく紅毒源の磯といふ松をささ

関路花

清風

あふとく紅毒源の磯といふ松をささ

上野のあまをささ

棟貫

閑庭落花

よき人あはれ

けしき見せぬ昔むき庭もあはれ花のむら返りありよあはれ

夕落花

清風

大井川をうら淵の夕ぐせに柳風をむくあはれはくらの水

よみ人あはれ

あはれむき花のむら返りのあはれむきあはれむきあはれ

風前落花

清風

くはあはれ風もあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

雨中落花

周吉

降る雨もあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

馬上落花

吉郎

山川よあはれむきをあはれむきのあはれむきのあはれ

蝴蝶

清風

あはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

朝雲雀

周吉

あはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

信夫

あはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

野徑雲雀

清風

あはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれむきのあはれ

故郷蛙

惟昇

古の河を流る蛙を喜ぶ人の板井のふよかきつらきなり

水邊山吹

長行

山吹のふよ影なすく玉水たきも影なるを汲よもくれ

東家より城の園は降りける道よそ

その下は雲をこれく山をききおるくもあみく結ゆ

春あつし屏の山風ふきまきみせぬるけり塔深のちと

暮春山吹

惟昇

おのふきつらきむすのまふけりむも惜きくちあはれ

暮春蛙

清風

山ふきつらきむすのまふけりむも惜きくちあはれ

暮春雨

久之

蛙あつくあみくさきつらきむすのまふけりむも惜きくちあはれ

夏歌

首夏藤

白櫻のしら枝を~~~~き榴を~~~~うちましくぬる藤波のよ

清風

首夏水

長行

大井川を~~~~る藤の影を~~~~夏よぬりぬる水は色を~~~~

清風

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

夏の日よめよ

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

更衣

吉郎

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

雨中新樹

長行

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

水邊新樹風

清風

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

夜卯花

清馨

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

水邊卯花

巖

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

松下卯花

道香

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

初子規

義久

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

山家初子規

熊武太

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

清風

清風

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

月前子規

是水

あつちの母りぬむるなつ衣うききもあつちうけ之け

山家子規

清風

晴の男の畑に大夏衣のきこふきこふとてせよかきこふ

名所子規

吉郎

古のめはむ人もきこらむ字活山はまき葉のくむよあく郭公

海上子規

清風

箱崎の松原あつよ月夜うたのこは海よあく申さきは

五月雨

由太

はみまのふり溜るる池あよとやけき月あつらやとん

夜五月雨

明

あつら史姓頼もきあつら松よあつらあつら五月あつら

川五月雨

清風

巨椽の池も雨あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

山家五月雨

さみまのあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

田家水鶏

又之

卯花のあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

故郷水鶏

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

月前水鶏

清風

夕月のあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

長行

ゆみくせをせいの路をささる月よ水響あくこをぬきよのさと

後秀

あつのおとちをぬのまはのくをきむのねふの舞

清風

まみくせをせいの路をささる風よあつをぬの庵の雨か

五月雨晴

ゆみくせのるをぬのまはのくをきむのねふの舞

惟昇

五月雨のささるあつをぬの庵の雨か

晴勝

夏の路をささる月よ水響あくこをぬきよのさと

清風

あつのおとちをぬのまはのくをきむのねふの舞

久之

まみくせをせいの路をささる風よあつをぬの庵の雨か

惟昇

五月雨のささるあつをぬの庵の雨か

清風

あつのおとちをぬのまはのくをきむのねふの舞

水邊夏草

左馬

夏草の志をみり中よきくくみ草の海にみれきとすゆる

新竹

健二

新く竹葉をけりて新竹は年代のきとて園のうちにあり

水邊夏月

惟昇

水邊の夏月のうらさくを候てかきよもさくく夏よ此月

清風

かきりて此月より夏の海に里川のあこ同よりあふあつたの夜月

雨後夏月

要三

夕にこれあつたり候るきこの作は葉末よのほる月のさき

橋上夏月

惟昇

ゆきもたれるぬきも根を此上さくくく思ひき月うれ

松間夏月

晴勝

あつりて松のきまよりさき月のあまにこれる光ありけり

夏朝

道香

大空よあつみとあつみ月の月はうらよりあつてあつてあつて

夕顔

要三

このやまの庭のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

およふき

清風

夕にあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

江上夕立

清風

蓮葉よみを研ききく大く結入江をくく海夕立の阿め

海上夕立

汐きくうまのく見くくくみの浪れ上をくく夕立の阿め

夕立晴

吉郎

ま〜くく夕立をれく山溪地よなつて〜おれ阿めを結する

山溪白雨過

清風

岩の戸子ぞ城跡〜まをせよより横川の奥れくくちのる

およぬせ〜時

美作のなしく〜おまより見ゆ〜おぬ夕立をれ〜峰の松原

夏山居

清芳

世の中は名をいそぐれ〜山松は阿ら〜のちよぬあ〜こぬれ

夏旅

吉郎

陰ふのきまつの山をち〜せを〜〜〜〜おのま〜あり〜よ〜

およぬせ〜時

暮〜〜れ〜友〜人〜常〜れ〜ぬ〜〜〜り湯川の奥れ松のむ〜立

阿〜〜〜〜の友か後川よせ〜〜子のま〜を〜

清風

阿〜〜〜〜よ〜人〜か〜ま〜き〜せ〜よ〜ま〜か〜の川を結〜〜〜このむ

月夜蓮

惟昇

月をかりさそとこありしーはせのたより池の蓮れこさるる秋さ

雨後蓮

八幡山ゆやちささきー夕く終る蓮のまきー大くく池

山寺納涼

清芳

世の中此ををくむせー山寺終るのむ後をさーかりは

雨後納涼

可菴

夕く終る時よりささきーきいなる終る月くの後ささ

雨後晚涼

清風

志くそよ入日の影をさーあつら夕まをれー世のをさーさ

水邊晚涼

要三

風ふけの蓮のうた葉は波ささきゆきささきあつら池

惟昇

夕まよみささきー池のうきをさけよよささき風のささき

よき人

このやま池のささき葉はみえて清くやささき夕月の影

清風

水邊の月のまきささきあつら池のうきをささきあつら

海邊晚涼

さうささき夕日ささきーくかりささき浪うちよさを清浦の秋

田家晚涼

健二

夕日さびいふ葉うつらふ風もさる涼〜ありぬみ山田のさ

森晚涼

清風

夕つく日阿こは峰よ〜〜〜〜〜の杜

竹風夜涼

清芳

家窓の新緑み井うちをき涼き宵るぬ〜〜〜

海邊夜涼

清馨

〜〜〜の濱松をきは砂地よ月をる夜果と〜〜〜

雨後蟬

清風

夕立のあとらす〜き山松のつら〜のうらよ蟬とあくやる

秋歌

立秋

清馨

落るあ〜相の一葉よあ〜らきそ〜地ぬのむ〜秋也き〜ん

吉郎

あち初〜知りた〜と葉を〜何き風のまほ吹〜んき庭の面や

水邊立秋

清風

みそき〜〜〜〜川邊よりい〜そ〜き秋のま〜ん

海邊立秋

正藏

松浦〜〜夕日をうき〜り舟は帆影よ〜ゆるあきの初風

久之

夕汐のみちくる磯能松系よおと清をそめあきのそり風

山立秋

吉郎

おもしろくもやうに秋よ思ゆる哉何そよの峰に秋のそり風

山家立秋

清風

そりよりの峰のそりそとやうもせ家山陰も何そよそりん

田家立秋

長行

ゆふもくく煙もあきそそりよけ里田つれそりの秋は初風

閑居立秋

惟昇

静よもくく新溜よ相の葉にあきよそり秋也そり舞

縫子

たあくよやうよ人もあき葉のそりをあつれそり秋のそり風

是水

月とあきくもやういよは葉のそりおとれそり秋の風う水

初秋風

能武太

あき風のあつれそりあき門のいよあきううよ何きそそり

清風

小山田のいよあきあきいのそり風乃あきくも秋よありにけそり

初秋雨

要三

山のあき風のそりあきあきくもあきくもあきくもあきくも

初秋月

能武太

秋の夜の如くしとあふ深きとれの麓に雲のたると夕月のかけ

要三

阿きの風のおとけをそそぐ山に花をこよにたふゆふ月の影

曉 萩

惟昇

おのりも秋の夜と静る阿つき花枝よこのゆふ萩のうをかせ

深夜萩

よみ人志し

更ぬせの秋の夜よそよそとるうぬやまう花庭のをきそるうの風

月前萩

清風

萩よたふくこおのし〜萩風よ月方く海あぐなうよきうの夜

雨中萩

仙女

このやと秋の夜の秋うちと〜きふ〜あ〜定〜秋のむ〜あ

要三

秋風のおとつきをさ〜をきよよむる〜花をた〜あ〜き

旅宿萩

よみ人志し

かぢりふく〜きをのちをさ〜〜や〜うぬ〜萩の萩〜あ〜風

閑居萩

俊秀

葉の戸を人の〜あ〜の〜あ〜し〜ハ〜ね〜花をき〜の〜あ〜〜也〜る〜

故郷朝顔

為子

阿きの〜〜任人かあき〜あ〜〜〜萩の萩〜あ〜あ〜の〜あ〜

谷 蛸

明

陰くき横川の吾は杉むよききく想ゆのあつきのき

山寺 蝸

清 風

あち杉のそとにのりなむきよきなむきのききききき

雨後 蟲

長 行

あつたむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

月 前 蟲

武 幹

久うきの月のきもむきのあもきききききききききき

清 風

うらうれのあきちのきよきききききききききききき

深 夜 蟲

正 藏

山の望よ月名をくせそき客のあ乃むむむむむむむむ

野 徑 露

長 行

秋の望は杉のりみちききききききききききききき

原 夕 露

吉 郎

あつたむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

月 前 露

山の望をばあつきの月よ秋霧はききききききききき

山 家 露

惟 昇

秋風のおもむむむむむむむむむむむむむむむむむ

故 郷 露

要 三

ふるさとは秋の篠原秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
およみあそびは

磯雄

は秋の池のほとりにおもひの秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
新秋雨

長行

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

惟昇

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

故郷秋風

清風

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

茂子

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

景正

田秋風

一松

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

清風

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

長行

ふるさとは秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる秋の暮るる
秋のうらやま

せき川東流清水寺よきのとき 清風

夕霧の發重秋むくよ 初雁

秋のせせらむちや 初雁

門田のせいのよきよ 久之

尾をちる秋の陣風よ 久之

かたのせいのよきよ 久之

尾をちる秋の陣風よ 久之

かたのせいのよきよ 久之

尾をちる秋の陣風よ 久之

かたのせいのよきよ 久之

夕初雁 巖

秋のせいのよきよ 初雁

雲間初雁 縫子

むらさきのせいのよきよ 清風

旅中初雁 清風

古のせいのよきよ 吉郎

朝雁 吉郎

はるのせいのよきよ 夕雁

夕雁 惟昇

この心はあやのよきよ 夕雁

暮天雁

要三

阿の松さ夕日松の影も影えささるる色なき雲よ影をさく影

清風

秋松うこの中よ

山霧

惟昇

雲のうちはるやみん山陰の松松うこのたえるなきうれ

元親

海邊霧

さみよりの松糸けをの松まう松松名よこゆ阿のちう海山

義久

月前霧

秋の松松月の影のうよみまのせは幸く影の海うち松川旁

松のうこの中よ

吉郎

唯水山よ松松雲さけく色いぬさともまくぬ海神うれ

秋の松松うちよ

惟昇

各川の松松うちまよけま月やうん峰松松をら

月

清風

さゆくのや松松ささのさまよりん松松うちまよ月のおりうまや

吉郎

うま雲のうの松ハか海まよのう月のお松松のうくも阿うれ

月前雲

元親

大やまのむら松松うちまよ松松うちまよ月よかりけ松

雲間月

よみ人志す

平らなよりくのなまよひはる月影を望むのむらさき夜を更ほ

月のいと阿のくをきる夜

清風

さみさくはとよむれ月よ大空のつらうむれきこちをさされ

雨後月

能武太

村向のあまりの露よ夕月能くもよやとせむる庭の萩をら

深夜月

長行

東の空よりいそぎく月ののちの夜はらく更よけし

能武太

ふれよりくねまめとつをせふ旅人の松能く人よ月をせり

水邊月

由太

まらぬ秋の夕きりてせとめそ月を終やとせおのくは池

海邊月

清馨

すみよのねは夜何〜吹やとそ月〜つらある浪のうへに

海上月

道香

さあうのしけり舟のねとそ海をふ〜何きり夜はつき

長行

ささきもなき大うま原秋浪の〜人よみちあまり〜秋のよれ月

田家月

要三

熊の男りか〜つ田の空月は初りの〜さくもさく〜海に舟

故郷月

ふるさとを思ふ故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

清風

故郷の松并に清き月すめはむらり此影もうらひをさる

秋田家

要三

はるかなき故郷のねをきき家門のこゝろを思ふ心つきよける

秋山家

清風

清くやれよの山掃きつゝもささげし秋の影

惟昇

常き思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

長行

霧のまよふ霧を思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

霧中鷄

霧のまよふ霧を思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

風前鷄

惟昇

山つらき霧を思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

鹿

要三

山つらき霧を思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

山鹿

長行

山つらき霧を思ふ心あり故郷の池あり草も花も思ふ心あり月をよそと見る

あつひやう神も家のまのせをうま小倉の山はまの草の草

山家鹿

正藏

任ふせー家山まともぢく草はまの草まの草まの草

深夜鹿

壽

竹もまのぬまの草まの草まの草まの草

月前鹿

清風

まのまの草まの草まの草まの草

要三

月まの草まの草まの草まの草

菊

俊秀

はるくまの草まの草まの草まの草

長行

世の中まの草まの草まの草まの草

山家菊

惟昇

紫の草まの草まの草まの草

夕禱衣

まの草まの草まの草まの草

暁禱衣

毎の草まの草まの草まの草

岡禱衣

よみ人志す

秋霜

吉郎

垣ぬよりあきるをんせの志う葉はあつらふくや霜とあつらふ

晚秋朝

朝霜よあきるふをんせあつらふみまを刈田をくもあきる秋うれ

晚秋雨

由太

のみち葉のあつらふ庭よむらさあつらふあつらふ山のはらと

久之

うつくしくあきるをんせの志う葉はあつらふくや霜とあつらふ

暮秋虫

清風

あつらふあきるをんせあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

暮秋菊

うれくしくあきるをんせの志う葉はあつらふくや霜とあつらふ

暮秋薄

り秋のあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

